

Monthly Report

Vol.63 / 2011 Jul.

中国国費留学生で初の大学院修了生

日野 晃希さん ~ダブルディグリー取得第一号~



写真右は安 載鶴先生(東北師範大学国際交流センター副所長)

中学国費留学生として東北師範大学大学院で学んでいた日野晃希さんが修士課程を修了し、帰国しました。日野さんは本学大学院2年生であった平成20年9月から東北師範大学に国費留学し、1年間は語学を学び、2年目から同大学大学院で学んでいました。東北師範大学と本学は両大学で学位・修士を取得できるダブルディグリーを締結しており、日野さんが本学でのダブルディグリー取得第1号となりました。日野さんは「中国で過ごした3年間で、中国語を身につけることができましたが、それ以上に多文化と触れ合うことで、中国の良さを知り、そして今まで以上に日本という国の素晴らしさを再認識しました。3年間は視野を広げる素晴らしい機会となりました。国費留学でお世話になった両大学の先生方に心から感謝しています」と話しています。

目次

中国国費留学 初の大学院修了生	1
上海体育学院とダブルディグリー覚書締結	2
慰霊碑を建立 学外実習における補充実習	3
日本スポーツ法学会と合同研究会	5
あかげさま色紙で感謝を 仙台大学柔道塾開講	6
流しソーメンで学生交流	7
同窓生2名が甲子園監督に	8
学生の活躍	10

学生の活躍や、取組みをご存知でしたら
広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関
にも旬な話題を提供していきたいと考えて
おります。

本誌へのご意見・ご質問等がございましたら、
広報室までご一報ください。

広報室

直通 0224-55-1802

内線 佐藤美保 256

土生佐多 200

伊東宏之 271

Email:kouhou@scn.ac.jp

上海体育学院とダブルディグリー制度に関する覚書締結



写真提供：事業戦略室

本学と上海体育学院は6月27日にダブルディグリー制度に関する覚書の調印を行いました。両大学は2002年に国際交流協定を締結し、互いの大学院に学生を送るなどの交流を図ってきました。

今年度、上海体育学院が本学の学部学生を受け入れることになったことから、両大学間の学部生に関するダブルディグリー制度について覚書を締結したものです。

本学がダブルディグリーを締結するのは東北師範大学に続いて2例目となります。

上海体育学院に留学中の羽川茜さん(明成高 仙台大)



今年3月に明成高校を卒業後、本学に入学。その後直ぐに上海体育学院へ留学した羽川茜さん。明成高校では女子バスケットボール部に所属し3年の時には中心選手としてインハイ3位の躍進に大きく貢献しました。

中学時代には漢字検定2級を取得するなど文武両道成績も優秀です。

羽川さんが留学を意識するようになったのは高校時代に同級生であり、チームメイトでもあった中国人の韓雨濠さん(ハンユウモン)の存在が大きかったそうです。

韓さんが留学してきた当初は、通訳を介し話さなければならず「中国語を覚え、直接彼女と話したい」と強く思ったのが留学を意識するきっかけになったそうです。

現在は9月からの学部入学に向け、中国語を猛勉強中の毎日だそうです。

「日本に留学経験を持つ中国人との出会いや、その友達とつながりが持てることはうれしい。寮には仙台大学の先輩3名を含む日本人学生4名がいるので心強いです。世界中から留学生が集まっており、これから多くの人とコミュニケーションを図っていくのが楽しみ」と話します。

卒業後は上海の日本人学校で働きたいとの希望も持っており、上海体育学院と初のダブルディグリー制度を使った学部留学生として、彼女のますますの成長が楽しみです。

志半ばで犠牲となった学生を悼み慰霊碑を建立



本学では東日本大震災の犠牲となった3名の学生と、これまで本学在学中に不慮の事故等により亡くなった学生を悼む慰霊碑を建立し、7月8日（金）と7月28日（木）に慰霊祭を執り行いました。慰霊祭には亡くなった学生のご遺族、教職員、学生が出席し、志半ばで犠牲となった学生を追悼しました。28日の慰霊祭では式に先立ち学内放送で黙祷が捧げられましたが、学生たちがそれぞれの場に立ち止まり黙祷する姿がありました。



慰霊碑の裏面には下記の言葉が刻んであります。

時代を担うべく
 学に勉めんと
 本学に籍を置きしに
 志しむなしく生を終え
 本学の礎となりし
 学徒の御霊を
 ここに慰めん
 平成二十三年七月
 仙台大学

平成23年度 学外実習における補充実習(災害ボランティア)



今回の大震災により、健康福祉学科における学外実習にも大きな影響を受けました。

その補充実習として、6月30日、7月7日の2回にわたって介護福祉士養成課程の学生46名が南三陸町と東松島市の介護老人保健施設において、災害ボランティア活動を実施しました。

このボランティア活動を実践するために事前に介護技術やレクリエーション等学内演習を行い臨みました。

参加した学生達は、みな真剣な表情で利用者の方々の足浴やリネン交換、清掃などを行い、また、レクリエーションではいきいきと歌や体操を展開し、利用者の方々と触れ合っていました。

帰りには、ひとり一人握手を交わしながら、利用者の方々の喜ぶ姿に学生達もうれしそうでした。

未だ、道路の脇には倒壊した建物や瓦礫の山があり、津波による被害を自分の目で確かめ、被災地での災害ボランティア(介護体験)は、「生活を支援する専門職」として大変貴重な学びとなったと思われます。

(情報提供：大山さく子教授)

一日学科体験会



写真提供：スポーツ情報マスメディア学科

7月9日(土)に体育・スポーツ情報マスメディア・現代武道学科、7月10日(日)に健康福祉・運動栄養学科の「学科一日体験会」を開催し、377名の生徒・保護者の方々にご来場いただきました。学生によるキャンパスライフの紹介や学科ごとの模擬授業を体験してもらい、自分の大学生像を膨らませていただけたことでしょう。

8月6日(土)には「オープンキャンパス」を開催します。仙台大学の魅力を十分に知っていただけるよう、教職員・学生が引き続き協力して大成功に導きましょう。

馬場准教授が仙台大学紀要「第3回ベスト論文賞」を受賞



撮影：薊職員(庶務課)

7月5日(火)に開催された第843回教授会の中で、学会会の仙台大学紀要「第3回ベスト論文賞」の表彰式が行われました。この賞は昨年度の仙台大学紀要に掲載された原著論文を学外の有識者5名で構成された仙台大学紀要ベスト論文賞選考委員に厳正な選考をしていただき、最も良い論文に対して表彰するものです。選考の結果、今年は馬場准教授の「我が国におけるアスレティックトレーナーの制度化に関する研究～制度の変遷に着目して～」が選ばれ、朴澤学長より賞状と記念品が授与されました。

南三陸町に支援物資



被災地の支援物資として、7月22日に南三陸町に支援物資を送りました。この日、送られたのはTシャツ444枚、辞書700冊、野球と陸上のユニフォーム4箱等です。

学内外から送っていただいた物資をサイズ・用途で細分化しています。少しでも被災地のお役に立てば幸いです。

日本スポーツ法学会との共催で夏季合同研究会を開催



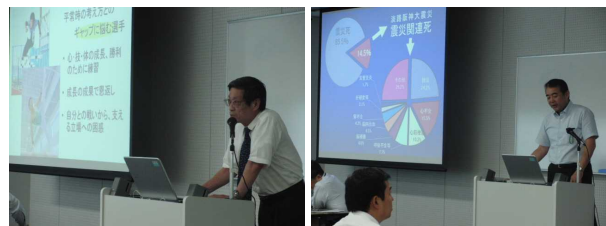
日本スポーツ法学会の夏季合同研究会が本学と共催で7月24日（日）に開催されました。

はじめに、スポーツ法学会からの報告として、弁護士の山崎卓也氏が「東日本大震災がスポーツに与えた影響と法的問題」と題し、プロ野球開幕問題や外国人選手の帰国要望と契約問題についての報告がなされました。国際武道大学の鈴木智幸氏は「東日本大震災における公共スポーツ施設の対応調査（中間報告）」として、震災が今後の指定管理者制度に及ぼす影響等についての調査報告がなされました。

後半には「震災復興とスポーツ」のテーマで、3つの報告がありました。

はじめに宮城県教育庁スポーツ健康課の土生善弘氏（仙台大学大学院1期生）からは、行政の立場から被災地の現状とともに、復旧・復興におけるスポーツ振興の果たすべき役割などが話されました。

本学からも2名の教授が報告を行い、避難所や仮設住宅などでエコノミークラス症候群予防のための運動指導や医療支援を実施している医師の橋本実教授からは、「震災から4ヶ月が経ち、スポーツへのニーズは高まっているが、被災者の中にはボランティアを受けていながらスポーツを実施するのは難しいといった声もある」と現場の声を報告しました。スポーツ情報マスメディア学科長の山内亨教授からは、被災地のニーズを収集・発信し、被災地との仲介役を果たして課題解決を試みる「スポーツ&ヘルスコンシェルジュ」の構想を紹介し、被災地にある体育系大学としてすべきことなどが話されました。



写真提供：スポーツ情報マスメディア学科

「第6回スポーツを考える会」開催



スポーツ情報マスメディア研究所は7月24日（日）、第3体育館2FのFDルームで平成23年度第1回の「スポーツを考える会」を実施しました。

これは、地域のスポーツ関係者をお招きし定期的に行っている勉強会で、通算6回目。この日は、学内で行われた日本スポーツ法学会に参加していた全国の有識者を交え、24名の方々にご参加頂きました。

出席者たちは、学会同様、この日のテーマであった「東日本大震災とスポーツ」や新しく制定された「スポーツ基本法」について熱い議論を交わし、放射能問題や子どもがスポーツをする権利の保証など、被災地におけるいまのスポーツの姿から、未来を見据えた新たな形のスポーツまで、互いの声に耳を傾け、真剣に意見交換をしていました。

次回開催は年末の予定です。

（情報提供：スポーツ情報マスメディア研究所）

おかげさま色紙で“感謝”をつなぐ ～人づくり・絆づくり～



仙台大学・宮城県サッカー協会・ベガルタ仙台・ベガルタ仙台ホームタウン協議会の4者で推進している「リスペクト！おかげさまプロジェクト」では、震災復興支援企画「おかげさま色紙で被災地に元気を！」を実施しています。おかげさまプロジェクトは、スポーツを支える人やものに感謝をあらわそうと展開されてきたもので、東日本大震災後、アスリートや指導者の方々から、日頃、スポーツを支えてきてくれた被災者のみなさんへのメッセージを頂き、8月から被災地で広く巡回展示します。

ベガルタ仙台VS大宮アルディージャの試合が行われた7月23日は、ユアテックスタジアム仙台で記者会見を行い、これまで寄せられたおかげさま色紙およそ200枚を仙台市に寄贈しました＝写真＝。

会見に参加した郷内和軌さん（仙台大学スポーツ情報マスメディア学科1年）は「今回の巡回展示

は、“おかげさま”を地域に広める大きな一歩だと思う。色紙プロジェクト以外でも、これまで続けてきた活動をより広く浸透できるように努力し、サッカーに限らずあらゆるスポーツ界からの“おかげさま”をひとりでも多くの方に感じて頂きたい」と決意を新たにしていました。

3年目を迎えた「リスペクト！おかげさまプロジェクト」。感謝をあらわす“おかげさま”で、スポーツ界からの発信“人づくり”“絆づくり”を目指します。

*8月2日（火）～8月31日（水）まで、地下鉄仙台駅・勾当台公園駅・泉中央駅の南北改札の間のコンコースで色紙を展示中。今年度いっぱい、岩手県・福島県を含めた被災地で巡回展示した後、おかげさまを楽しく学ぶ“おかげさま読本”と合わせ、宮城県内の小学校に寄贈予定です。

<スポーツ情報マスメディア研究所>



仙台大学柔道塾が開講 ～ 体育大学としての地域貢献事業 ～



7月19日（火）に仙台大学柔道塾が開講し、幼稚園児と小学生の15名が入塾しました。今回の開講は、近隣に住む幼児・児童を子供に持つ保護者からの強い要望があったもので、今後も入塾希望者が増えることが見込まれています。

柔道を含む「武道」は平成24年度から中学校で必修となることが決まっており、日本古来の伝統

が見直されており、世界の柔道界を知りつくす指導者が、柔道を通して子供たちの心と身体を鍛え、人間力向上を図ります。

開講日：毎週火曜日・金曜日19:00～20:30

場所：仙台大学第3体育館3F柔道場

指導者：南條 充寿 准教授

南條 和枝 柔道女子監督

仲田 直樹 助教

サポートスタッフ：柔道部員



夏の風物詩「流しソーメン」で学生交流

～ 学生支援センターキャンパスライフサポートグループの取り組み～



学生同士の仲間づくりの場を企画・提供する学生支援センターのキャンパスライフサポートグループが、学科を越えた交流と学生交流の場を提供する目的で、「流しソーメン」を企画し、7月27日（水）に噴水広場前で実施しました。キャンパスライフサポートグループの8名の他に5名のボランティア学生も参加し、留学生をはじめ多くの学生が立ち寄り、夏の風物詩を堪能していました。

キャンパスライフサポートグループのリーダー
横山奈々さん（運動栄養学科4年）



キャンパスライフサポートは、学科を越えた交流を行う場として、これまでコラージュ会やお茶会など様々な活動を行ってきました。今回行った流しソーめんは、新入生の交流の場を作ること、またキャンパスライフサポートのメンバーを増やすことを目的として行いました。今後もこのような活動を行い、学科・学年を越えた交流の場をつくり、多くの学生に出会いの場を提供し、よりよい学校生活が送れるように支援していきたいと思います。

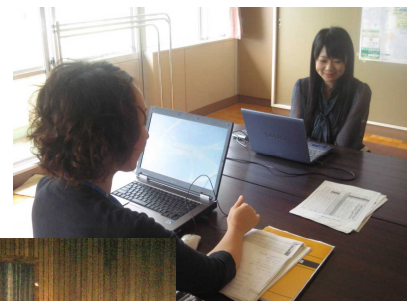
学生支援センターの活動にはキャンパスライフサポートグループの他に以下の4グループあります。興味がある学生は是非、参加してください。

- ・ラーニング・サポートグループ
障害を持つ学生へのサポート活動
- ・インターナショナル・ラーニング・サポートグループ
外国人留学生へのサポート活動
- ・ボランティアサポートグループ
ボランティア活動の推進と支援活動
- ・アクティビティ・サポートグループ
学外交流事業に関与する学生への支援及び学生が主催・共催するベンチャー活動への支援

名取市みどり台中学校との交流

荒井教授が校長先生として出向している名取市みどり台中学校と本学は、様々な交流を行っています。7月17日には女子バレーボール部が練習で第2体育館を使用し、20日には橋本教授が同中学校を訪問して教職員に対してAED（心臓救命装置）の使用法などの救急救命講習を行いました。25日には高橋理恵さん（健康福祉学科4年）が養護教諭のアシスタントとして活動、25、26日には中国人留学生で元卓球プロ選手の劉思さん（大学院1年）が卓球部の指導を行っています。

今後もプール監視員や養護教諭のアシスタントとして学生が関わることが予定されており、益々の交流が図られていきます。荒井校長も「今後も部活動をはじめ様々な領域でご協力をお願いします」と話されています。



高橋理恵さんが養護教諭アシスタント



劉思さんの卓球指導

写真提供：荒井校長

仙台大学の卒業生2名が監督として甲子園に出場

全国高校野球大会は甲子園を目指し、49地区で熱戦が繰り広げられました。その中で、東日本大震災の被災地になった宮城県・福島県の代表を勝ち取ったのは、仙台大学を卒業した監督が率いるチームでした。震災の影響があった中でもチームを立て直し、斎藤智也監督（本学17回生）は聖光学院高校を5年連続出場、間橋康生監督（本学24回生）は古川工業高校を初出場に導きました。

甲子園では被災地からの出場校として注目度も高いことが予想されます。皆さんも是非、応援をよろしくお願い致します。



第13回校長職就任祝賀会、第1回宮城県新規採用教員激励会

7月30日（土）にKKRホテル仙台において第13回校長職就任祝賀会、第1回宮城県新規採用教員激励会が行われ、同窓生及び本学関係者73名が出席しました。本学の同窓生で今年、宮城県の校長職に就任したのは石巻市立鮎川小学校校長の山本玲先生（9回生）と仙台市立坪沼小学校校長の大内啓邦先生（10回生）の2人です。また、今年は初めて宮城県新規採用教員の激励会も合わせて開催され、採用された20名うち14名の先生方に出席いただきました。

多くの方が挨拶で激励を行いました。前日に全国大会優勝監督となった常盤木学園高校女子サッカー部監督の阿部由晴氏（17回生）の挨拶では、全国大会優勝報告が述べられた後、教え子の3選手（鮫島彩選手、熊谷紗希選手、田中明日菜選手）がなでしこジャパンのメンバーとして、ワールドカップ優勝に大きく貢献したことも紹介されました。

今回は新規採用者の激励会も同時開催したことで、若手の同窓生も多く見られ、同窓生同士の交流の場としてもたいへん充実した交流の機会となったようです。



山本玲校長

大内啓邦校長



新規採用教員のOB・OGの皆様

仙台大学同窓会代議員会



7月23日（土）に仙台大学同窓会代議員会が第5体育館大会議室で行われ、同窓会会長の鈴木省三教授をはじめとする同窓会理事・支部長など役員20名が各地から集結しました。会では決算や予算、事業報告、同窓会会則の変更等について審議が行われ、同窓会として震災復興のために何ができるか等について話し合われました。

代議員会終了後にはサンシャイン青葉（柴田町内）で懇親会を行い、朴澤学長・佐々木事務局長も参加し親睦を深めました。

フィンランド・カヤーニ応用科学大学留学より帰国

～ スポーツ情報マスメディア学科3年 高橋 悠さん ～



韓国料理の日(友達と韓国料理を作った時)

平成22年8月31日から平成23年5月27日の9ヶ月間の留学を終え、高橋悠さんが帰国しました。

昨年3月の3週間のフィンランド・カヤーニ応用科学大学への短期留学を経て今回は2度目の同大学留学となった高橋さん。カヤーニ応用科学大学の留学生寮において、様々な国の人との交流を通じ沢山の学びを得てきたようです。

高橋 悠さん(スポーツ情報マスメディア学科3年)

「短期留学中に仲良くなったフィンランドの友達と再会できたことで、フィンランド生活は順調にスタートしました。9ヶ月の大学生活は毎日が刺激的でした。大学ではExchange student(留学生)に対し短い旅行も企画されているので、プログラムの中で在学生や他の留学生との交流が深まり、フィンランドの文化に触れる良い経験ができました。

また、カヤーニの授業は双方向授業が殆ど。与えられた課題には必ず全員が提出します。忘れたという学生はゼロです。この、学生の授業に対する姿勢にも刺激を受けました。

10月の仙台大学での後期授業からは、1学年下の学生のみなどと一緒に、授業を受けることになります。知り合いが少ないので不安もありますが、新しい友達が増えるチャンスと前向きに捉え臨んでいきたいと思います。また、英語力が落ちないように、キーナート副学長の「English Club」、また森先生が授業外で開いて下さっている英会話のレッスンなどにも参加し、フィンランドでの学びを活かしながら大学生活を送っていききたいと思います。」と笑顔で話してくれました。

もともと英語が大好きだった高橋さんは、フィンランドでの大学生活を通じて、将来は日本の子どもたちに、よくある日常英会話を教えるだけでなく、スポーツを通して英語(ルールや、体の部位・動作など)に触れる機会をつくってみたいと強く思ったそうです。今後の進路についても、試行錯誤しながらも目標に向かって何をすべきかを見極めていきたいと夢を膨らませています。努力家の高橋さんですので、これからの大学生活で沢山の可能性を見つけてほしいと思います。



IPC Biathlon & Cross Country Skiing World Cupでのお手伝い

予算管理課 只野課長の作品を第5体育館に展示



予算管理課の只野課長は平成21年3月に武蔵野美術大学を卒業されました。卒業制作作品「In the rain(日本画)」を大学に寄贈いただき、第5体育館2階の廊下壁面に展示しています。是非、ご覧ください。

日本画は油彩とは違い、一般的に色調が濃厚ではなく、表現が簡潔であるのが特徴とされています。基底材として和紙や絹に描かれることが多く、岩絵具(ラピスラズリや孔雀石などの^{にかわ} 鉱石を砕いて作った顔料)や染料系の水干絵具を膠(動物の皮膚や骨などから抽出するたんぱく質)で定着させて制作されます。また、墨や金箔などを用いることもあります。本作品も、和紙に岩絵具および水干絵具で制作されています。

コ・アクト 今年のテーマは“前進”



神奈川県で行った「ナイスハートふれあいのスポーツ広場」

障害者スポーツサポート研究会Co-Act.（以下：コ・アクト）が学外でも多方面にわたって活躍しています。普段の活動は、年齢や障害の有無に関係なく楽しめるニュースポーツ教室や交流会の企画・開催や障害者スポーツ団体への援助等を介し、スポーツや身体を動かすことの楽しさを伝える活動を行っています。

まさに、本学の基本理念であるスポーツ・フォア・オール～スポーツは健康な人のためだけでなくすべての人に～の精神に沿った活動といえます。3.11東日本大震災の影響で、予定していた活動が困難となる中、部員達は「障がい者に限らず、避難所で暮らす一般の方々へもニュースポーツを提供し、笑顔になってもらおう」と、避難所の宮城野体育館を訪問し子供のストレス発散を目的としたニュースポーツの提供を行いました。石巻地区でも同じ活動を1ヶ月に1度実施しています。この活動の他、県内のみならず全日本自動車産業労働組合総連合会からの依頼により神奈川県や青森県で行われる「ナイスハートふれあいのスポーツ広場」に講師として招かれニュースポーツの指導も行なっています。さらには岩沼北中学校1年生90名にもニュースポーツ3種目の指導を行ったりもしているそうです。

今年度コ・アクトには25名が所属しています。彼らの活動源は「参加者の笑顔」。部員たちは「自分たちも楽しいし、相手に喜んでもらいたい」「活動を楽しみに待ってくれる人がいる」と

話します。

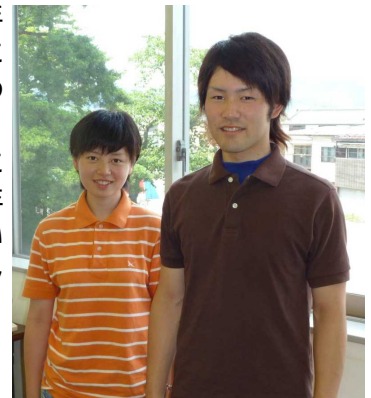
主将を務める朝井寛輝さん（運動栄養学科3年/酒田南高卒）は、コ・アクトの活動の魅力とエピソードを話してくれました。

「私は正直、高校まで障がいのある方と、どのように接してよいか判りませんでした。コ・アクトに入部当初のこと、月に1度「仙台市手をつなぐ育成会」から依頼されているニュースポーツ教室の活動で、接し方が難しい方とペアを組むことになりました。この方は、突然大声を発したりや暴力を振るってしまう方で、毎月のマンツーマン活動で、どう接すればよいか悩み、活動に参加することさえ嫌になっていました。でも最後の指導となった日、この方から思いがけず「ありがとう」と感謝のことばと握手を求めてくれました。この一言で自分の想いだけで接したことに気付かされ、先輩に強制的に押し付けられたと感じていた自分が恥ずかしく思え、大きな感動となりました」。

副主将の佐竹香さん（スポーツ情報マスメディア学科3年/多賀城高卒）も「障がいのある方もない方にも大学生でしかできない活動をやっていききたい。」と話します。

今後の活動は、障がい児を持つ母親サークル「にこにこキッズ」のキャンプサポートを9月からあらたにスタートすること、10月末の学園祭では、恒例のCo-Aピックを「前進～みんなPeaceCoアピック～」をテーマに開催します。

今年は大震災もあったので、年齢や障害の有無に関係なく柴田町の全員を集めるくらいの勢いで盛大に行いますので是非みなさんに来ていただけたらうれしいです。と話してくれました。



左：佐竹香さん、右：朝井寛輝さん

世界U-23ボート選手権 結果は7位



漕艇部女子キャプテンの小笠原沙織さん（体育学科4年/北海道網走南が丘高校卒）がU-23日本代表として7月21-24日にオランダ・アムステルダムで行われた世界U-23

ボート選手権大会の女子クォドルプルに出場しました。予選で前回大会優勝のイタリアチームに勝るタイムを出すなど素晴らしいレースをしましたが、コンマ差で決勝Aに進めず、結果は7位でした。

世界大会に出場するのが高校からの目標だったと話す小笠原さんは、卒業後も社会人チームに所属し競技を続けることが内定しています。

早生まれでもあるため、来年のU-23世界選手権の年齢条件をクリアしており、出場のチャンスがあります。

「はじめての世界戦で多くのことを学ぶことができました。海外の選手は体が大きく、体格の差はありますが、日本人でも十分戦える手ごたえがありました。来年も日本代表として出場しメダルを取りたい。」と得たものも大きかったようです。

漕艇部は8月にインカレを控えており、悲願達成に向けた小笠原さんの活躍が期待されます。

トライアスロン部 インカレで悲願の入賞を



小山真男さんのこれまでの成績		
	東北大会	インカレ
2011	2位	8/28実施
2010	4位	27位
2009	22位	88位
2008	35位	不出場

トライアスロン部の小山真男さん（体育学科4年）の目標は「インカレで入賞（6位以内）し、23歳以下日本代表となること」と話します。本学のインカレでの最高成績は昨年大会で上村昌志さん（平成22年度卒）の個人7位と団体7位という成績で未だ入賞を成し遂げていません。小山さんの「インカレ6位以内入賞」は実現できるところまで来ています。

7月3日に栃木県で行われたインカレ予選（東北北学生選手権大会）では、東北大学に次いで第2位。昨年のインカレ優勝校は個人・団体共に東北大学で今年も優勝候補です。今回の準優勝は全国でも通用するはずと、インカレに向けて大きな弾みがついたようです。小山さん以外にも4名がインカレ出場権を獲得。各大学3名の合計タイムで競う団体戦の出場もできた。インカレまで2ヶ月を切ったが残された時間で各々のレベルアップを図る。

トライアスロン部は震災後は大学のプールが使用できず、道路もうねりや陥没等で、安心して練習ができない状況が続いた。現在は角田市営

プールで一般客の方々の邪魔にならないよう気をつけながらスイムを練習し、路面状況に注意を払いつつも不屈の精神でバイク、ランに取り組んでいる。インカレは8月28日に香川県観音寺市で行われる。本学トライアスロン部初の入賞に期待したい。

小山真男さん（体育学科4年）

トライアスロンの魅力は練習の分だけタイムが伸びること。はじめはスイム1.5km、ラン10km、バイク40kmという長い距離をゴールすることが想像すらできませんでしたが練習を重ねることでゴールできるようになりタイムも伸びてきます。また、レースの度に新しい課題が見つかるため、課題・達成・課題の繰り返しで自分自身を成長させてくれます。練習が成績にこれほど直結する競技は他にはないと思います。

私がトライアスロン部に入部したのは上村昌志さん（平成22年度卒）に誘われたのがきっかけです。入部後は上村さんのトライアスロンへの情熱を間近で見て「この人を超えたい」と思うようになりました。昨年仙台大学は個人戦で上村さんが7位、団体戦も7位で入賞の一步手前で涙を飲みました。先輩を越えるためにも、上村さんが成し得なかったインカレ入賞（6位以内）を必ず果たします。

<インカレ出場者>

- 小山真男さん（体育4年）
- 細川 慧さん（体育4年）
- 佐藤光希さん（健康福祉3年）
- 佐藤秀樹さん（健康福祉3年）
- 佐藤京太郎さん（体育2年）

関西学生アメフト連盟が主催する「ニューエラボウル」に本学の学生も招待 出場



仙台大学アメリカンフットボール部公式HPより

7月10日（日）に京セラドーム大阪で開催された「ニューエラボウル（主催：関西学生アメリカンフットボール連盟）」に、東日本大震災で被災地となった東北学生選抜が特別招待され、本学アメリカンフットボール部員5名もチームに加わり出場しました。「ニューエラボウル」は関西学生アメリカンフットボール連盟所属各校の選抜選手・コーチと全米大学体育協会（NCAA）加盟大学からの招待選手・コーチがBLUE STARSとWHITE STARSに分かれて戦うオールスター形式のゲームです。今年はアメリカからハワイ大学とネバダ大学ラスベガス校が加わり熱戦が繰り広げられました。ゲーム以外にもフットボール・クリニック等を通じた国際交流の場となっており、学生たちにとって貴重な体験となったようです。

東北選手団の主将を務めた 加藤良太さん（体育学科4年）



東北の選手が関西の選手と同じフィールドでプレーできる機会は少ないのでたいへん良い機会となりました。アメリカの選手のレベルに触られたことも刺激になりました。

アメリカンフットボールの東北地区予選は今月下旬からはじまります。是非、甲子園ボウル（インカレ決勝）出場を勝ち取り、今回交流を図った関西のチームとの対戦を果たしてほしい。

< 参加した学生 >

- 加藤良太さん（体育4年）
- 飯田浄至さん（健康福祉3年）
- 菅原正人さん（体育3年）
- 高橋史弥さん（体育3年）
- 菅原久義さん（体育2年）